

次々に通り過ぎていく。特にその中で、裸足の白い服装の一人が特大の十字架を担ぐ姿が目を引いた。聞けばその人は、現に刑期中で釈放を待つが、この行事に参加すると、罪を赦され、社会に戻る特典ができるとのことだった。

聖土曜日はレオンからイベリヤ半島北西部の起伏の多い道を、アストルガを経て、サンチャゴ迄、黙想のバスの旅が続く。途中、峠越え時に雨と霧に驚かされたが、無事夕陽の残る「よろこびの丘」に到着した。

その夜、静かなコンポステラを訪れ、旅の無事を感じ感謝する。

翌朝、復活祭のミサに参列、大聖堂に一步踏み込むと、かの栄光の門が、巡礼者を迎える。身動きができぬ程の人々。十二世紀に二十余年をかけ、二百余の聖人物語が画かれたロマネスク彫刻の傑作。十四の柱の中央に聖ヤコブの像が置かれている。天井からは太いロープに吊るされた大香炉に香が焚かれ、八名の修道士が力を合わせて綱を引き振る。堂内に香煙がけ

むる中でのミサ。ミサ後、栄光の門、中央柱内の聖ヤコブ像の背に手をおき、頭を軽くつけて感謝の祈りをし、巡礼は完遂する。事務所ので巡礼証明書も頂けた。



②子供隊の十字架の列



①「レオン」聖金曜日行列・十字架を背負う裸足の人



④喜びの丘よりサンチャゴの街を望む巡礼者像



③本屋のウィンドウ